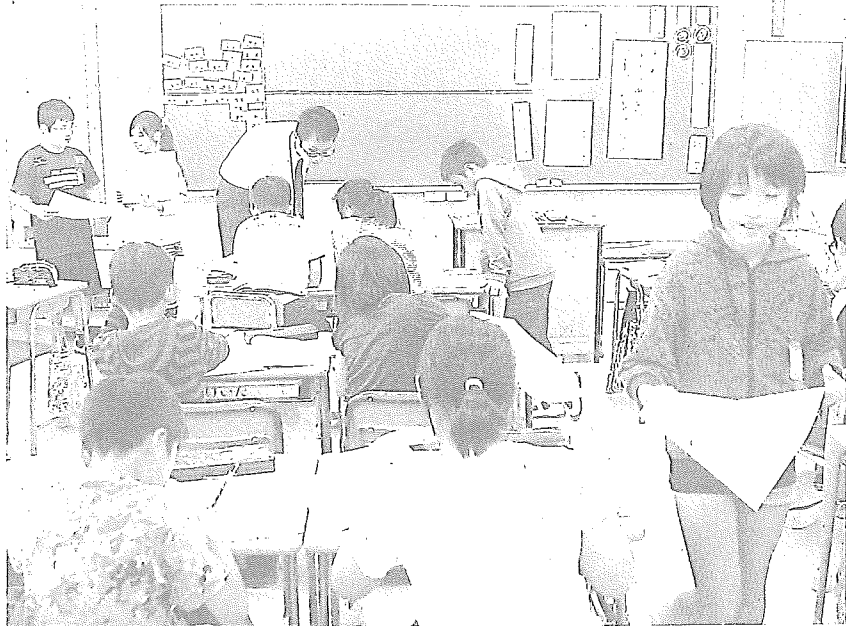


## 工夫や配慮積み重ね

## 北川副小がUD授業披露

佐賀市

ユニバーサルデザイン(UD)の視点を取り入れた授業を研究している佐賀市の北川副小(松田美恵校長)で14日、公開授業があった。板書の内容を精選して授業の狙いを明確にするなど、児童の集中力を維持させるための工夫や配慮を積み重ねた授業研究の成果を披露した。



事前に準備していた教材を利用して板書時間を減らしたUD授業。「学び合い」の指示は口頭だけでなく電子黒板でも示している＝佐賀市の北川副小

## 板書減らし児童との時間

UDは「あらゆる人にとって使いやすい」という考え方。同校はその視点を取り入れ、全ての児童がつまずかずに学べる授業の在り方を模索している。

公開授業は全学年の計15学級で行った。研究主任の近藤慎也教諭が国語を教えた4年1組では、1人暮らして使つたら洋室と和室どちらを選ぶかというテーマで授業。冒頭この日の目当てを示した後、児童1人で考える時間、他の児童と意見を交わす「学び合い」の時間など、児童が聞くだけにならない構成で進めた。

事前に準備したマグネット付きの紙で黒板に要点を張り出し、教師の板書を減らして児童に向き合う時間を増やす工夫も。また、学年はじめのテストで、この学級に「見た内容の短期記憶」「聞いた内容の短期記憶」「文章を見て書き写す」などを苦手とする傾向が見えたことから、授業中の指示も短く具体的な言葉を選び、声だけでなく黒板や電子黒板にも記した。

授業後、近藤教諭は参観者に取り組みを報告。「UDの視点を取り入れたといっても目新しくはなかったかもしれないが、これは初めの一步。次のステップに前進させた」と語った。

(山口貴由)